

2020 年度前期第三回北海道大学大学祭全学実行委員会

議事要旨

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

長(実行委員長)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

理(理学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

工(工学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

甲(傍聴人、一年生)

乙(傍聴人、前事務局長)

その他の略称:

各祭(北大祭を構成する榆陵祭・各学部祭などの学祭)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

ダンパ(工学祭の企画、仮装ダンスパーティー)

第 0 部:近況報告

第 1 部:実地開催可能性

文責:副実行委員長 山根斗和

第 0 部:近況報告

実行委員長が以下の内容について説明。

- ・これまでの経緯と前提事項
- ・医学展と歯学祭が既に両実行委員会内で中止を決定し、今回の会議は総数 7 で決定を行うこと
- ・傍聴人にも発言権はあるが、資料はないこと
- ・今回で行うとなっても、大学当局や厚生労働省の方針で厳しいとなったらそれに従うこと
- ・2020 年の北大祭が中止となった場合、2021 年 3 月まで(2020 年度中)の北大祭は中止となること

その後、実行委員長が個人の見解を述べる。

長： 自分としては開催すべき。理性的にみると難しい部分はあるが、これまで頑張ってきた各祭や実行委員会、事務局が報われないのは悲しい。しかし、感染症対策が難しい。

農： 判断の中身について、主旨を教えてもらいたい。農学祭としては、中止でもそこまで被害がないので周りに合わせるような形になるが、事務局や実行委員会役員の意見が欲しい。

長： 代表としては実地で行いたい。普段と違う新しい形の模索をしたい。一方で、感染症対策や、各祭実行委員会の負担が不安。

その後、会議の流れを説明。

第 1 部: 実地開催可能性

以下のように分けて議論を進めた。

- a. 食品提供
- b. 屋内企画
- c. ステージ企画
- d. 屋外企画(食品提供無し)

長： a については、北大祭の重要なアイデンティティである。模擬店無しであるというのが想像できず、模擬店の無い北大祭を北大祭と言っても良いのかとなる。また、各祭実行委員会の財源確保にも関わってくる。懸念することとしては、飛沫感染の可能性が高いことやこのご時世食べ歩きが許されるのかということである。

b について、文科系サークルや、実験など、学術的な面が多いので、これらがなくなると大学祭と呼ぶのは難しい。しかし、換気の面や、大学当局の反応も思わしくない。

c について、盛り上がりや、音楽系・ダンス系団体の発表の場があるのでそういった意味では確保したい。一方で、飛沫感染や、いわゆる密を避けるのが難しい。

d について、体験型の企画が多く、来場者と運営の距離の確保が難しい。

以上のことを踏まえて考える。

長： 意見や質問はあるか。

甲： 一年生として、屋内企画として学部・学科の紹介をしてもらいたい。また、大学構内に入ったことのない人も多いので、「大学に来てよい」という機会を作ってほしい。クラス企画としても、クラスの機能がないため、北大祭で何かきっかけを作ってもらいたい。

各祭毎の意見

長： 各祭ごとの意見を聞きたい。

- 獣医： 模擬店は感染対策が難しい。屋外企画は企画によるが、十分な対策ができるのなら可能。
- 榆： 屋外の模擬店については、テントの中に 7~8 人いるため、感染対策を行いつらい。屋内企画は食品提供よりは行いやすい。文科系サークルの発表の場をなくすのは寂しいのでできるだけ避けたい。ステージについては、声を出すことは難しいが完全に無くすというのは避けたい。
- 工： 屋外企画として、ダンパや実験がある。両方とも声を出すことと密になるのは避けられない。屋内企画は、工学祭内での人員不足によって感染対策が難しい。
- 薬： 食品提供については榆陵祭と同様。屋内企画は講演会なら人を離して行うことは可能。屋外企画は接触感染の可能性がある。
- 理： 食品提供については榆陵祭と同様。また、採算を取れないので厳しい。屋内企画は、10 月に学会があり、研究室が忙しいので協力を得ることが難しい。
- 農： 食品提供は感染症対策を行うのが難しい。屋外企画としては、参加している団体の展示などを行いたい。そういった意味では屋外企画はできないことはない。
- IFF： 食品提供については、飛沫感染対策とソーシャルディスタンスの確保が難しい。また、利益を出しづらく、メンバーも忙しかったため理解を得るのが難しい。屋外企画は天候を十分に予測できないので難しい。縮小開催自体、元の北大祭ほどの魅力が得られず、難しい。

第 2 部:オンライン開催の可能性

第 3 部:北大祭開催是非について

文責:会計 金子宗弘

第 2 部:オンライン開催の可能性

- 長： オンライン開催の手段としては、YouTube などの外部メディアを用いて(公式ウェブではサーバーダウンの可能性があるため)の動画の配信や双方向性を確保した参加型の LIVE 配信も考えられる。
オンライン開催について、全体に共有したい意見、疑問点があれば言ってもらおう。
- 甲： オンライン開催がどのようなものとなるか、各祭がどのような意見かわからないが、一年生としては避けたい。学部を知るためにも、オンラインであっても開催してほしい。一年生側から働きかけるのは難しいが、場を設けてもらえれば参加することができる。

各祭毎の意見

長： オンライン開催の意義、できること、是非について意見を述べてもらう。

獣医： オンライン開催において各祭としてできることは少ない。

楡： 楡陵祭は参加団体ありきなため、参加する団体が少しでもあるならばオンラインでも開催したい。

工： 工学祭のメインイベントである公開実験やダンパはその場で参加できるという要素が最重要であり、オンラインでは魅力ある企画にならない。北大祭全体についてはプログラムの策定や発信手段の整理の時間を考えると今から準備をするのは困難ではないか。

薬： 薬学祭の企画として公開講義や薬草園ツアーは可能だが、例年のような活発な質疑ややり取りがなく魅力に欠ける点や当日のトラブルに懸念がある。「0を避ける」には例年と異なる催しを行い学部の紹介などをするほかないのではないか。

理： 理学祭は例年ポスターなどで学術的な発表をしておりオンライン化も可能だが、低年齢層向けに体験を交えた企画ができない以上北大祭と呼べるような楽しいものはできないと思う。出展する際の負担も無視できない。

農： ステージ企画などのサークルの発表の場が確保されるのかという懸念があるが、オンラインでも開催するのは良いと思う。

IFF： オンライン上にある様々なコンテンツと比較した時、来場者が満足できるものを提供できるとは思えない。やるとすれば一年生向けのオリエンテーションだが、来場者からは更に遠いものになってしまう。

第3部：北大祭開催の是非

実地開催：是		実地開催：非	
A: 例年規模の実地開催	B: 大幅に規模を縮小した実地開催	C: 全面的なオンライン開催	D: 全面中止

長： A,B,C,D の選択肢を実地開催か否かで分類し、まず実地開催の是非を決してから再び二択をとる。

また、薬学祭は所用により離席した。結論に合わせて薬学部事務と交渉するとのことで認可してもらったので、残る六各祭で議決を行う。

質問、意見はあるか。

甲： 一年生に受け皿としてのイベントの場を提供すれば何か行う人々は確実にいるはずである。例年の模擬店の代替とまではいかなくとも、できる限り実地での開催を望む。

各祭毎の意見

獣医： 獣医学祭は B 或いは D を支持する。例年通りの開催は難しく、オンライン開催も企画実施に難があるため。学科の紹介はできるが北大祭である必要はない。

楡： 参加者ありきの楡陵祭としては、可能な限り例年に近い方式で開催したい(A>B>C>D)。実地が困難であればオンラインでも開催したい。

工： 工学祭としては中止を支持する。実地開催は人手不足で難しく、オンラインでは上述のように企画の趣旨を全うできない。北大祭全体としても実地は感染症対策の、オンラインは実施方法の選択肢を絞ることの難しさから中止すべきだと考える。一年生向けに北大祭でないとしても何かしらの催しができると良いと思う。

理： 理学祭の学科代表は中止のデメリットがないとのことと意欲的でなく、来場者の需要があるかも疑問。オンラインにしても北大祭だからこそできる新規性あるものを提供できるとは思えない。

農： 農学祭としては実地開催の可能性もあると考えていた。一年生のためにも、十月に開催したい。

IFF： 実地開催は新型コロナウイルス感染症のため困難である。オンラインで一年生向けの催しをするとしてもそれは北大祭とは違うものになるし、機材などの負担も懸念がある。

全体の意見・決議

長： 一年生向けの催しを北大祭という枠でやるか否かをという話は論点が完全にずれるので、今回は是非を決めたのちに考えることとする。
議論も出尽くしたと思うので議決をとるが、何か意見はあるか。

甲： 一年生にとっては様々なイベントを逃している状況であり、北大祭の実地開催までも逃したくない。

工： 大学が定めるBCPレベルとの兼ね合いはどうか。

長： 北大祭は学祭という特殊な行事であるため課外活動とは言い切れず、BCP レベルをそのまま照らし合わせることは難しい。しかし一般論として課外活動が再開できないような状況で学祭をすべきかという問題もあるため、実行委員長としてはBCPレベル0への移行は実地開催の必須条件

と考えている。

乙： 事務局を代表する意見ではないが、事務局は十月の開催が確定すれば準備できる体制にあるため、考慮する必要はない。

長： これ以上ないようなので議決に移る。

議案「2020年度の北大祭は実地で開催する」

承認 2 票 不承認 4 票 棄権 0 票

長： 不承認多数につき、今年度の北大祭の実地では開催しない。
続いてCとDの選択肢より議決をとる。

議案「2020年度の北大祭は全面的にオンラインで開催する」

承認 2 票 不承認 4 票 棄権 0 票

長： 不承認多数につき、2020年度に北大祭は行わないと決定した。